

秋季総合コアプログラムが開催されました

秋季総合コアプログラムが、9月21日(土)T-1002で行われました。このプログラムは、総合的・学際的な感性・理解力の養成を目的として、春と秋の2回実施する講義です。院生はもちろん、専任教員も全員参加し、学際的テーマを設定して討論を行います。今回は、博士学位論文の中間発表1題と、特別講演が2題でした。



はじめに博士課程2年の江里口知巳さんが博士論文の中間発表を行いました。タイトルは「海洋生物体内の化学物質・重金属蓄積量の推定手法に関する研究」でした。化学物質のリスク評価を行うための従来の数値モデルに加え、生物蓄積モデルの開発を行っている江里口さん。近年はヒトに対するリスク評価が重要視されていることから、江里口さんの研究に注目が集まりました。

特別講演の一人目は、総合学術研究科の特任教授も務めている、国立長寿医療研究センター・内科総合診療部長の遠藤英俊先生。「健康長寿をめざそう」のタイトルで、健康長寿社会構築への取り組みや、認知症治療・予防研究の最前線のお話しをされました。双子の長寿姉妹「きんさん・ぎんさん」として知られた故蟹江ぎんさんの娘4人の長寿の秘訣を紹介されるなど、豊富な実例と巧みな話術で聴講者を魅了されました。



そして特別講演の二人目は、愛知県水産試験場の蒲原聡先生。タイトルは、『『豊かな海』三河湾に向けて～底層DOの回復～』でした。総合学術研究科の修了生でもある蒲原先生。溶存酸素濃度(DO)という新たな指標を用いて、魚介類の再生産の場の確保という観点から研究をされています。「海洋王国」日本復活への熱意が強く感じられました。